



再生医療スタート! 脂肪幹細胞を用いた再生医療を始めました



「再生医療」という言葉を聞かれたことはありますか？

これは、他の臓器に「分化」していく性質を持った自分の細胞を用いて、足りない組織を「再生」させることによって病気を治していこうとする医療です。

「分化する能力を持った細胞」というと、ノーベル賞を受賞された京都大学の山中伸弥先生のiPS細胞が大変有名です。ほかES細胞や骨髄の中にある骨髄幹細胞、皮下脂肪の中にある脂肪幹細胞があり、それらを使用した「再生医療」の進歩は近年著しいものがあります。その対象となる疾患と選択できる再生医療の種類は法律で厳格に規制されています。詳しくは再生医療学会の「再生医療PORTAL」ホームページをご覧ください。



当院では2022年8月より、皮下脂肪の中に含まれる「脂肪幹細胞」を用いた手足の血流障害による痛みや皮膚潰瘍に対する再生医療を、名古屋大学医学部循環器内科学講座の全面的なバックアップのもと開始しました。

例えば、動脈の炎症や動脈硬化などによって動脈の血液が足先に十分に行きわたらなくなると、初めは静かにしているときは痛くなくても一定の距離を歩いたりすると足が痛くなってしまい立ち止まらざるを得なくなる症状が出てきます。これを「間欠性跛行」と言います。放置しておくとなかなか歩かなくても足が痛くなり、更に放置すると足の組織の壊死が始まります。そしてさらに壊死が進行したり、壊死した組織が細菌感染などすると生命の危険が大変高くなるといわれています。

これに対して注射や内服などによる薬物治療に加えバイパス手術やカテーテルによる血管形成術が行われます。しかしそれらを全て駆使しても、特に膝から下の動脈が狭くなったりつまったりしている場合、なかなか効果が得られないことが多く、いずれ切断とならざるを得ないことも多くみられます。そういった状況に至らせないための起死回生の治療として、「脂肪幹細胞」による再生医療があります。

これはお腹やお尻の皮下脂肪を吸引して、そのなかに含まれている「幹細胞」を抽出して、ふくらはぎを中心とした足の筋肉内に打ち込む、という治療です。幹細胞が「足りない動脈血流」を補うべく毛細血管のような組織に分化して、その先の血液の流れが改善し、ひいては血液が足りないことによる足の痛みや皮膚の潰瘍が良くなるのが期待できるのです。

なぜ皮下脂肪か？ということですが、そもそも皮下脂肪の中には骨髄の中と比較して約1300倍もの豊富な幹細胞が含まれています。脂肪は余分なものと思われがちですが、幹細胞の宝庫と言えます。

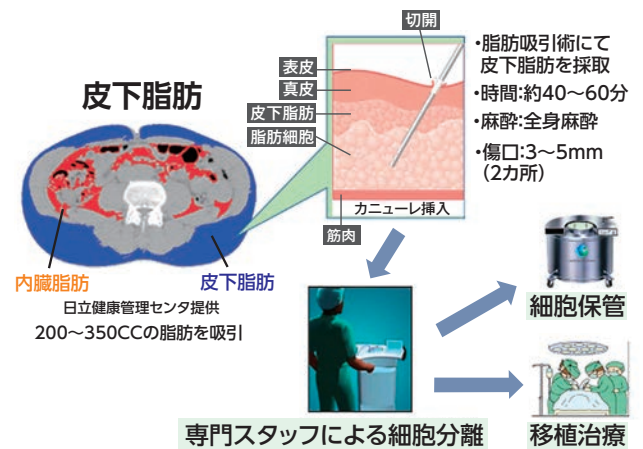
この「脂肪幹細胞を用いた四肢の重症虚血に対する再生医療」は現時点では医療保険対象ではなく自費診療となります。当院ではできるだけ治療(カテーテルによる血管形成術や薬物治療など)を先行して医療保険で行い、更に必要な場合はこの脂肪幹細胞による再生医療を組み合わせる形で、できるだけ足の大きな切断や生命の危険を回避したいと考えています。

これからの医療の力をにぎる先進技術の代表とも言われている再生医療ですが、遠い世界の話ではありません。患者さまの切実なご要望に対して有用な治療手段として、これからしっかりと根付いていくことを切に願っております。

理事長 今村 康宏

※この治療に対してのお問い合わせは済衆館病院ホームページ、または外科外来までお願いいたします。Tel.0568-21-0811(代表)平日:月~金13時~16時

治療イメージ(流れ)



次号は「変形性頸椎症について」です

- 11月1日(火)~11月30日(水)薬剤耐性(AMR)対策推進月間/乳幼児突然死症候群(SIDS)対策強化月間
- 11月3日(木)文化の日 ●11月9日(水)119番の日 ●11月13日(日)~11月19日(土)/11月14日(月)全国糖尿病週間/世界糖尿病デー
- 11月23日(水)勤労感謝の日 ●11月20日(日)~11月26日(土)医療安全推進週間

銀杏が
落ちたる後の
風の音
中村汀女作

第188号 2022.11月
発行 済衆館病院広報委員会

医療法人 済衆館 済衆館病院
TEL.0568-21-0811(代表)

〒481-0004 北名古屋市鹿田西村前111番地
e-mail: saishukan@rio.odn.ne.jp https://saishukan.com
FAX.0568-22-7494